

演奏活動45周年

平佐 修 ギターコンサート
Osamu Hirsa Guitar Concert
マンドラ:梯 杉子

2017 **9.18** (月/祝) 開場/13:00 開演/13:30

ザ・ルーテルホール

主催：平佐修演奏活動 45 周年ギターコンサート実行委員会

プログラム

【第一部／ギターソロ】

アリアと変奏…G.フレスコバルディー

メランコリー・ガリアルダ と アルマンデ…J.ダウランド

2つのシャンソン

失われた恋 と 枯葉…J.コスマ

3つの作品…H.ビラ=ロボス

プレリュードNo.4、ショリーニョ と ヴァルス・ショーロ

3つの映画音楽

ファチネーション…F.D.マルシッチ

ひまわり…H.マンシーニ

第三の男…A.カラス

休 憩

【第二部／デュオ・セント】

2つのシャンソン

サンジャンの私の恋人…E.カララ

セ・シ・ボン…A.ベッティ

追想、幻影と夢(「ロマン組曲」より)…二橋 潤一

アリア (ブラジル風バッハNo.5より)…H.ビラ=ロボス

4つの作品…A.ピアソラ

タンティ・アニ・プリマ(アベ・マリア)

チキリン・デ・バチン

オブリビオン

リベルタンゴ



【デュオ・セントさっぽろプロフィール】

'07年に産声を上げたマンドラとギター
のユニット。

ユニット名の「セント」は「St.(神)」では
なく、デビューした札幌西区のスーパー銭
湯「湯屋・サーモン」の業種名に由来する。
年中暖かい休憩室で、湯上がりのお客様に
聴いていただくことで演奏経験を積んだ
ユニークなデュオ。

福祉関係イベント、高齢者施設の慰問演奏、
チャリティーコンサート出演など多数。

A.ピアソラの作品上演をメインに、オリ
ジナル・日本歌曲・童謡・クラシック音楽・
アニメ音楽などジャンルにこだわらない
レパートリーを持つ。'14年11月「札幌市
役所ロビーコンサート」に出演。

【平佐修プロフィール】

'73年デビューリサイタル(札幌)および、在道ギ
タリストとして初めての東京ソロリサイタル('75
年)以後、道内各地での演奏のほかラジオ放送や札
幌交響楽団定期演奏会出演など広範囲な演奏活動
を行ってきた。

アンサンブル演奏に力を注ぎ、'90年に開始した
「ギター室内楽シリーズ(全12回)」において管弦楽
器とギターのためのオリジナル作品や、歌とギター
のための日本初演を含む数多くの作品を紹介した。
また、オリジナルや編曲作品も多く、朗読とギター、
演劇や人形劇のための挿入曲(歌)、マンドリン合奏
用作曲・編曲など300曲を超える。

特に '93年、アルゼンチンタンゴの巨星:A・ピ
アソラの「追悼演奏会(国内では京都に次ぐ)」を、
京谷弘司氏(バンドネオン/京都在住)故・石原ゆか
り氏(ヴァイオリン/札幌)・佐藤洋一氏(ギター/
江別市在住)ほかの共演を得て開催できたことは、
その後の活動の大きな指針となっている。



山菜と釣り

山菜といえば「フキ」「ウド」「タラの芽」「ワラビ」まどなど、この札幌市内の野山でも採取することは難しくはない。

とは言いながら、何故か車で片道1時間とか2時間もかけてお気に入りの場所に出かけてしまうのは、魚釣りの楽しみ方に似たところがある。

私の釣りの楽しみは主にヤマベ釣りだが、ヤマベも札幌市内の小川でも20センチオーバーを釣るのは難しいことではない。中学生の息子も格別な感動もなく釣ってくるのに、わざわざ数日をかけて道東の川へ出かけるのは何故だろう。

確かにレジャーから得られる気持ち良さはあるが、遠出したからといって思っているような釣りができるとは限らない。山菜採りも同じで、無理やり時間を作り野山に分け入っても、タイミングが良くなければ思うような収穫は得られない。にもかかわらず、釣りにも山菜採りにもシーズン間近になると気持ちが落ち着かなくなるのは性分というもののなのだろう。

1948年 軽川町（現札幌市手稲）生まれの私には、山菜は自宅から徒歩で数十分以内の原野（現手稲前田辺り）とか山裾（手稲山のふもと）で採るものだったが、40才を過ぎた頃からは何故かニセコだの積丹半島だのと車で出かけるようになってしまった。

私は車の運転免許を持ったことがないので、常に誰かが車を運転することになる。その運転手の一人（いや、失敬）に、高校生時代からの友人がいる。

その運転手…否、友人が昨年春、見たことのない葉っぱを持ってきた。形はイタヤカエデの葉そっくりだが緑が濃く、木の葉にしては心なしか厚手に見える。「木か？」と聞くと「いや、草だ」と言う。

とりあえずてんぷらにして食したが、なかなか個性的な味と香りで実にうまい。おしやしにすると、さくさくとした歯ざわりで味の濃さが際立った。生えているところも見たくなり、『こりゃ〜採りに行くよりないな』と思いつつひと冬を過ごした。

今年5月のある日、1泊の予定で札幌を発った。向かったのは知内町。片道5時間かけて…じめじめとした杉林の斜面に生えている葉っぱは何とも美味そうに見えた。

シドケ、シトギ、モミジリウなどとも呼ばれ、東北地方ではごくフツーに食している野草で「モミジガサ」と山菜図鑑にあった。

濃緑色の葉っぱを求めて1泊（?!）…バツカじゃないの…とか言うなかれ。食いたいのものが野山に生えていて、それを採取する欲求にかられるのはごくノーマルな感性である。（万年六糸坊）